

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和２年度）

1 支援の内容及び効果等

【評価項目】「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度始めと年度途中で各地域の現状と課題を整理し、的確に支援していた。 ・積極的な部会支援により、自律的に運営される部会が増えてきた。 ・基礎的な内容を徹底的に支援することで、一部の地域で議決の在り方などが改善されてきた。 ・職員のスキルを生かし、地域の課題やニーズに応じて支援していた。 ・総会、運営委員会での書面議決方法についての支援を行うことで、コロナ禍でも各地域が適切に議決を行うことができた。 ・コロナ禍により補助金の取り扱いに変更があったが、地域への丁寧な支援によりトラブルなく会計処理を行うことができた。 ・ツルラボ（鶴見区地域活動研究会）において Zoom を使いオンラインで開催し、コロナ禍における地域活動についての的確に支援していた。

2 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

【評価項目】アンケート調査

評価	左記の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査で、「まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施していると感じる割合」が 87.5%と高い値となった。

3 総合評価【全体】

評価	左記の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として妥当な支援である。 ・年度始めに各地域の現状と課題を整理し、的確に支援された。 ・積極的な部会支援により、自律的に運営される部会が増えてきた。 ・Zoom を使ったオンライン事業や会議の書面表決など、コロナ禍における地域活動についての的確に支援していた。 ・職員のスキルを生かし、地域の課題やニーズにマッチした有効な支援が提供できた。 ・他区・本部との連携を密に取っており、当区の支援に反映させていた。

(評価基準)

S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。

A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。

B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。

C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。